

慢性腰痛患者に対するオステオパシー医療介入の際のオステオパシー手技療法の有用性：疼痛登録簿をベースにした研究

John C. Licciardone, DO, MS, MBS; Robert J. Gatchel, PhD

抄録

背景：今回のオステオパシーによる実証実験において、3カ月の期間で6回のオステオパシー手技療法（OMT）を受けた慢性腰痛患者に、疼痛強度の実質的な改善、疼痛に対するレスキュー薬の必要性の減少、回復尤度の増加が認められた。

目的：厳格な研究プロトコルの制約がない実社会において、オステオパシー医療の慢性腰痛患者に対する OMT の有用性を評価すること。

方法：2016年の4月から2019年の2月の間に、Precision Pain Research Registry*（疼痛研究のための登録簿）に登録している、オステオパシー医（DO）またはアロパシー医（MD）により治療を受けた445人の慢性腰痛を抱える成人の観察研究が実施された。主な評価基準は、腰痛強度に対する評価に数値的評価スケール（numerical rating scale [NRS]）、背部関連機能評価に Roland-Morris Disability Questionnaire (RDQ)、そして腰痛に対する非ステロイド性抗炎症薬とオピオイドの使用頻度が用いられた。

結果：OMTを使用したDOにより79人、OMTを使用しないDOにより48人、MDにより318人の計445人が治療された。OMTを使用したDOにより治療された患者はMDに治療された患者と比較して、腰痛の強度（数値評定法 5.6, 95%CI, 5.1-6.1 vs 6.1, 95%CI, 5.9-6.3, $P=.04$ ）、および背部関連障害（ローランドモリス障害質問表平均 12.4; 95%CI, 11.1-13.8 vs 14.4; 95%CI, 13.7-15.0 + $P=.009$ ）において有意な減少を報告した。また OMT を使用した DO に治療された患者は、非ステロイド性抗炎症薬（多変量オッズ比 0.41; 95%CI, 0.24-0.70, $P=.001$ ）、オピオイド（多変量オッズ比 0.52; 95%CI, 0.28-0.98; $P=.04$ ）において使用頻度の低下が報告された。OMT を使用しなかった DO と MD においては、主な結果に有意差はなかった。

結論：疼痛研究のための登録簿にあるコミュニティーベースの患者に関する今回の研究は、慢性腰痛に対するオステオパシー医療における統合的要素の一つとしての OMT の有効性を支持している。OMT を使用しなかった DO から治療された患者は、主要な評価項目において MD から治療された患者よりも良い結果を示すことはなかった。

OMT の効果を、医療介入中の患者と DO との相互作用に帰する可能性のある他の治療効果と

より特異的に比較するさらなる研究が必要である。

*Precision Pain Research Registry ノーステキサス大学健康科学センターに本部を置き、腰痛のある人々を登録し研究している機関

<https://www.unthsc.edu/research/precision-pain-research-registry/>

原論文

Osteopathic Medical Care With and Without Osteopathic Manipulative Treatment in Patients With Chronic Low Back Pain : A Pain Registry-Based Study

John C. Licciardone, DO, MS, MBS; Robert J. Gatchel, PhD

The Journal of the American Osteopathic Association, February 2020, Vol. 120, 64-73.

翻訳者：松村暁，MRO(J)

